



レースの数だけ、ドラマがある。

ドラマチック
DRAUMATIC



IWATEKEIBA PRESSRELEASE

令和7年1月14日



2024年度岩手競馬 年度代表馬はフジュージーン号！ ～ 各部門表彰馬が決まりました ～

岩手県競馬組合

本日、「2024年度岩手競馬年度代表馬等選考委員会（委員長：株式会社IBC岩手放送 加藤久智氏）」が盛岡競馬場内で行われ、各部門表彰馬と年度代表馬が決定しました。

栄えある年度代表馬には、ダイヤモンドカップ、東北優駿と3歳クラシックで2勝、また他地区の交流競走で優勝するなど年間を通して活躍を見せたことが評価され、3歳最優秀馬に選出されたフジュージーン号が選ばれました。

また、特別表彰には、1999年デビューから無傷の9連勝をはじめ、東京大賞典、マイルチャンピオンシップ南部杯の地方競馬GⅠ競走2勝、2001年度・2002年度と二年連続のNARグランプリ年度代表馬選出など、岩手競馬史に輝かしい功績を残し、昨年10月に亡くなったトーホウエンペラー号が選ばれました。

各部門選考結果は以下のとおりです。

■ 各部門表彰馬

部 門	馬 名	性 齢	戦	勝	今季取得 賞金(円)	馬主	調教師
年度代表馬 3歳最優秀馬	フジュージーン	牡 3	6	4	48,700,000	富士ファーム	瀬戸 幸一
2歳最優秀馬	ポマイカイ	牡 2	6	2	14,205,000	高橋 文枝	菅原 勲
4歳以上最優秀馬	ヒロシクン	牡 5	10	7	21,950,000	瀬谷 隆雄	佐藤 雅彦
最優秀牝馬	ミニアチュール	牝 4	12	6	20,893,000	平賀 敏男	佐藤 祐司
最優秀短距離馬	ゴールデンヒーラー	牝 6	6	4	10,838,000	平賀 敏男	佐藤 祐司
特別表彰	トーホウエンペラー	牡	—	—	—	—	—

※記載内容は2024年12月31日終了時点（岩手競馬所属時）の今シーズン成績

※最優秀ターフホースは、芝の重賞競走が2競走しか実施されなかったため、選考の対象外とした。

○ 年度代表馬／3歳最優秀馬

フジュージーン〔牡／3歳／瀬戸幸一厩舎〕



2021年5月14日生

父：ゴールデンバローズ

母：デザイナー（母の父：スウィフトカレント）

戦績：6戦4勝

主な成績

「第44回 ダイヤモンドカップ」優勝

「第32回 東北優駿」優勝

「第49回 スプリングカップ」優勝

「第58回 楠賞」優勝（園田）

○ 2歳最優秀馬

ポマイカイ〔牡／2歳／菅原勲厩舎〕



2022年5月17日生

父：ベストウォーリア

母：キタサンロングラン（母の父：アドマイヤムーン）

戦績：6戦2勝

主な成績

「第2回 ネクストスター盛岡」優勝

○ 4歳以上最優秀馬

ヒロシクン〔セン／5歳／佐藤雅彦厩舎〕



2019年4月16日生

父：ドレフォン

母：エスプリドパリ（母の父：ハーツクライ）

戦績：10戦7勝

主な成績

「第52回 一條記念みちのく大賞典」優勝

「第32回 青藍賞」優勝

「第23回 トウケイニセイ記念」優勝

○ 最優秀牝馬

ミニアチュール〔牝／4歳／佐藤祐司厩舎〕



2020年4月1日生

父：ラブリーデイ

母：ローマンブリッジ（母の父：ブライアンズタイム）

戦績：12戦6勝

主な成績

「第50回 ビューチフルドリーマーカップ」優勝

「第11回 ヴィーナススプリント」優勝

「第47回 すずらん賞」優勝

○ 最優秀短距離馬

ゴールデンヒーラー〔牝/6歳/佐藤祐司厩舎〕



2018年4月5日生

父：タートルボウル

母：ミリオンハッピー（母の父：アグネスタキオン）

戦績：6戦4勝

主な成績

「第56回 岩鷲賞」優勝

「第30回 白嶺賞」優勝

「第36回 栗駒賞」優勝

○ 特別表彰

トーホウエンペラー



1996年5月11日生

父：ブライアンズタイム

母：レインボーブルー（母の父：ノーリユート）

生涯成績：33戦20勝

主な勝ち鞍

「第26回 桐花賞」（2000年）

「第15回 マイルチャンピオンシップ南部杯」（2002年）

○ 馬事文化賞

・持続可能な馬資源の活用を目指すジオファーム八幡平

ジオファーム八幡平 企業組合八幡平地熱活用プロジェクト

代表理事 船橋 慶延 氏

2015年に八幡平市にオープンした農場「ジオファーム八幡平」では、馬の堆肥を活用してマッシュルーム生産を行っています。自身が馬術競技の選手であり、競走馬の育成に長らく携わってきた代表の船橋慶延氏が、引退した競走馬の活用の可能性を探る中で、堆厩肥を使用したマッシュルーム栽培を志向し、事業化に成功しました。現在は引退した競走馬など20頭余りが繋養されており、馬術競技や乗馬体験に対応しつつ農業生産の上で大事な役割を持って暮らしています。

一方、船橋氏は2019年に競走馬の休養・調教施設グレイトフルホースファームを開設。岩手競馬・中央競馬所属馬の施設利用が進んでおり、常時4～50頭が預託されています。更にこうした環境の中から長女・次女が馬術競技の選手として活躍。昨年の鹿児島国体では少年団体飛越で姉妹ペアが3位に入るなどスポーツ振興にも寄与しています。

動物愛護と地域産業の振興・人材育成を持続的に融合・発展させる試みは、人と馬の理想的な関わり方を示すものと言えます。活動の原動力は「競走馬に第二・第三の活躍の場を」という氏の愛馬精神に他ならず、馬を柱としたSDGSの取り組みが満10年となった功績を評価するものです。

・全日本総合馬術・内国産選手権初代王者

日本大学 職員 菅原 権太郎 選手

2024年11月に行われた馬術競技の最高峰、全日本総合大会の新設種目・内国産総合選手権で、水沢農業高校出身で日本大学職員の菅原権太郎選手が優勝しました。菅原選手は水沢農業高校時代に2012年の岐阜清流国体スピード&ハンディネス競技で5位入賞、日本大学4年次の2016年には全日本学生馬術選手権で優勝と、学生時代から好成績を残してきました。

更に卒業後も日本大学馬術部のコーチとして活躍し、2018年にはタイで行われたアジア選手権で準優勝など国際大会でも活躍。そして今回は内国産馬による新設種目で優勝と新たな実績を積み上げました。

現在30歳ということで今後にも期待がかかりますが、新設種目・内国産総合選手権初代優勝という偉業を称え、評価するものです。



上記に関するお問い合わせ先
岩手県競馬組合 広報営業課
TEL:019-626-7713 担当：佐藤